

パブリック・サービス研究分科会 4月 「図書館力」研究グループ報告書	
日時	2011年4月25日(月)
場所	文化学園大学
記録	池上(東洋英和女学院大学)
参加者	阿部(早稲田大学)、池上(東洋英和)、菅原(中央大学)、田中(山梨英和大学)

## 作業内容

### ① 各自収集した資料について。

ワシントン大学は、日本からワシントン大学を見学した人が多いため資料も多い。今後、論文の核となる可能性があるため、担当者に URL を他のメンバーへ送信するよう依頼し、情報を共有することとする。

他の大学資料についても、適宜 Web 上の共有フォルダにアップをしていく。

### ② 今後の進め方について。

日本国内の各大学のラーニングコモンズへの取り組みは、事例がまだ少ない。諸外国の取り組みを学び、足りないところや日本で求められる部分を取り入れ、理想の大学を作るのはどうか。可能ならばラーニングコモンズのモデルも作ってみたい。

また、なぜ米国ではラーニングコモンズが発展したのか、自分なりの解釈をしてみてもどうか。文献によると、米国では図書館の外にライティングセンターがあるので、ラーニングコモンズが定着をしたという見方もある。日本の学生の学び方と米国の学生の学び方の違いについてはどうか。

日本の図書館の独自性は何であると言えるか。

大学図書館のミッションステートメントは何か。

### ③ 講演等について

講演を依頼する場合どうするか。

六本木ライブラリーを見学する企画はどうか。見学をする際、質問事項等は何か。

## 次回までの課題

- ・仮アウトラインについて各自で考える。
- ・参考資料を収集する。
- ・今後メールの件名には【ベアグループ】を入れ、積極的に意見交換を行う。

(以上)